

第2回平群町第6次総合計画等検討委員会 会議録

【日時】令和4年6月2日（木） 9:30～11:40

【出席者】12名

【欠席者】1名

【事務局】まち未来推進室：4名、コンサルタント（ランドブレイン）：2名

1. 開会

2. 町長挨拶及び諮問

西脇町長： 本日は多忙にもかかわらず、第2回検討委員会にご参加いただいたことについて御礼申し上げます。また、日頃より町行政に対し、ご協力いただいていることを重ねて御礼申し上げます。

本町では、減少を続けている人口の対策を主管とした「まち未来推進室」を、本年4月に創設したところであり、本検討委員会の事務局も担当する。現在、平群町では特に人口対策は最も大きな課題の一つであり、この先も住民の皆様にも暮らしやすく、住み続けたいと思っていただける町にしていくためにも、避けて通れない課題となっている。

主管は、まち未来推進室であるが、全職員が一丸となり、一つ一つ課題を解決していく所存であるので、皆様方にもお力添えをいただきたく願います。

本日は、次期総合計画の策定に向け、これまで実施してきた町民アンケート結果やまちづくり会議等の内容、現計画の検証などから見えてきた課題と今後取り組むべき検討内容について報告させていただくとともに、計画策定に向けて意見を頂戴する場となる。委員の皆様方には、計画策定に向けて、それぞれの立場で忌憚ないご意見を出していただきたい。

3. 議事および報告事項

①第1回平群町まちづくり会議における意見等への回答について（資料1）

事務局：（資料説明）

小坂委員： 待機児童 2 名について、何歳児で出ているのか。現在、ゆめさとこども園では 0 歳児の受け入れがゼロ人であり、待機児童が 0 歳児であるのか知りたい。

事務局： 児童の受け入れにあたり、児童数に応じた先生（保育士）の配置基準が決まっており、0～2 歳児は 3～5 歳児に比べて配置基準が厳しくなっている。そのため 0～2 歳児の児童受け入れに十分な保育士が確保できず、低年齢の待機児童が発生しやすい状態になっている。

種坂委員： 児童を受け入れる箱（施設）ではなく、先生（保育士）の確保が問題になっているのか。

事務局： 施設についても問題はあり、今までは空き教室などを利用してきたが、令和元年度より（3～5 歳時の）幼児教育の無償化が始まったことで児童が増加し、低年齢の児童の部屋がひっ迫している状況である。今後の課題となっている。

種坂委員： それでは、保育士の確保だけでなく、受け入れる施設の方も問題になっているということでしょうか。

事務局： 今後、施設の在り方も含めた課題が発生しうることも考えられる。

中山会長： 待機児童は重要な問題で、若い人たちが平群町に移住して子育てしようと思っても、保育所に空きが無ければ移住が難しくなる。認定こども園が 2 か所あり、町立のものであれば国の基準以上の面積で建てられていると思うので、広さの面ではおそらく 2 人分くらいは大丈夫だろう。保育士もあと 1 人くらい確保できれば解消ができるのではないかと推定する。

待機児童がいるということになると、それだけで若い人から敬遠されることになるので、ぜひ具体的な対策について検討いただきたい。

②平群町中学生アンケートの調査結果について（資料 2）

③平群町まちづくり会議の実施報告について（資料 3－1， 3－2）

事務局： （資料説明）

竹内委員： 中学生アンケートで「住みたくない」が 49.6%となっていることは重要な問題である。問 8 にその理由が示されているが、「他に住みたい場所がある」ならどこに住みたいのか、「楽しめる場所や施設が少ない」のであれば、どのような施設を求めているのか具体的に知りたい。

また、若い人が自主的に取り組める環境が必要であり、例えば、大和高田市では市立高田商業高校に「まち部」という活動があり、コンビニとコラボしたりすることで、まちの活性化に取り組んでいる。高校生も含め、若者のそのような活動への参加を支援するといった取り組みが必要になると考える。

事務局： 住みたい場所がどこかといった具体的な内容については、自由意見の内容も調べ、その結果を次回の委員会で提示する。高校との連携については、平群町には高校がないこともあり、今後も、様々な意見を反映させるということを目的として、町内の高校生の意見をどのように反映させていくかについても検討する。

中山会長： 自然や歴史資源が多い、災害が少ないといった意見は若い人も一般の人も共通していると受け取った。交通利便性については評価の低い回答も高い回答も一定の割合で存在しており、それが年齢による違いなのか、住んでいる場所によって違うのか、交通空白地といったところが存在しているのか、評価が割れている理由についてあれば教えてほしい。

事務局： 山間部に住んでいる人は車がないと生活ができない一方で、駅周辺に住んでいる人は大阪方面に行きやすい環境にある。ご指摘の通り公共交通機関が整備されていない「交通空白地」といった考え方もあり、交通利便性に関する意見については、住んでいる地域によって意見が分かれることが考えられる。

また、近鉄沿線、大阪のベッドタウンとして利便性が高いということだが、同じ大阪のベッドタウンである近隣の生駒市や三郷町と比べた場合は、平群町の方が低いという評価になり、鉄道は単線である近鉄生駒線のみであることも利便性が低いというイメージになっていることが考えられる。車で大阪方面への交通利便性も低いと感じている人が多いと考えられる。

中山会長： 駅に比較的近いところでは利便性が高いが、駅から離れたところでは坂も多く利便性が低い、また車で遠方に行く場合も利便性が低いという評価になっているというわけだが、平群町内や町周辺への移動についての利便性はどういう評価となっているのか。

- 事務局： 南北の移動については、幹線道路の整備が進み、通行しやすい道路も多くなっているが、東西方向への移動については大きい道が少なく、アクセスしにくいところも多いのが現状である。
- 中山会長： 地域の将来を考える上で、交通の問題は重要となる。今後もさらに検討を進めていただきたい。
- 山田委員： 「緑がきれい」という意見が出たが、地域のボランティアからは、近年は「町が汚くなってきている」という意見も上がっている。主要幹線も他の市町村に比べると断然汚い。また、遊歩道もあるが、歩けないような状況になっているところもあり、「緑」や「自然」をアピールしていくのであれば、そのような現状も捉えた上で、検討を進めていくべきである。
- 事務局： 自然を守るという観点からも、環境整備について引き続き努めていく。
- 岡委員： 中学生アンケートで半数が「住みたくない」という回答となったことは見過ごせない問題である。「他に住んでみたいところがある」という理由もあるが、例えば、「雇用がない」とかいったはっきりした理由もあるのではないか。「他に住んでみたい」「楽しめる施設がない」といった単純な理由ではなく、もっと深い理由があるように思う。理由をもっとはっきりさせなければならないのではないか。
- 事務局： 先ほども同じような意見をいただいたが、具体的な内容については自由意見を参照、整理し、次回の委員会で報告する。
また、将来現中学生が働き始める年齢になったときのことも視野に入れ、次期計画の策定に向けて検討も進めていきたい。
- 中山会長： かなり重要なことであると思うが、中学生がどこまで深く考えているか分からないところもある。施策として考えなければならないこととしては、小中学生が地域のことに愛着を持てるような教育がどの程度されているかといったことも、子どもたちが住み続けたいと思うポイントとなるので、今後の総合計画の検討過程において活かしていけばいいと思う。

ランドブレイン：（中学生アンケートに関する補足）

「住み続けたくない」という回答が多くなっている点について、自由記述の回答を確認したところ、「都会に住みたい」というような意見がみられた。その他具体的な内容についても整理する。また「住み続けたい」「住み続けたくない」とそれぞれ回答した中学生が、まちの良いところ、悪いところをどのように考えているかについてクロス分析を進め、中学生が「住み続けたい」といった意向となるためには、どのような内容が必要になるのかについても整理する。

（住民アンケート、交通利便性の評価にかかる回答への補足）

交通利便性への評価は、住んでいる地域によって異なることが考えられるが、平群町では現在 75 歳くらいの団塊世代が増加しており、運転免許を返納する人も多くなってくる。それによって移動手段も変わることになり、年齢によるクロス集計、分析を進めていく。

④平群町の現状・課題・今度の取り組むべき検討内容について（資料 4）

小坂委員：説明いただいた課題と今後の取り組むべき内容については取り組みを進め、その他に足りないことを、委員会の場では議論するということになるのか。

事務局：検討内容を提示しており、記載した取り組みを第 6 次総合計画に盛り込むと決定したわけではない。これまでに様々な会議等を行った上で、とりまとめた資料である。他にも皆様からいろんな意見をいただき、いただいた意見についても精査しながら、今後も協議を続けていく。

小坂委員：本計画と離れた内容かもしれないが、メガソーラー計画のことが町内外で話題に上がっている。平群町は災害が少ないと言われているが、メガソーラーにより災害リスクが高くなるのではないかとという点で町民の関心が高くなっている。

また、町有の空地利用についても課題である。南保育園跡地などの大きめの空地が有効利用されていない現状もあり、町としてこれからどのように検討していくのか教えていただきたい。

事務局：メガソーラーについては、環境への影響に対して町民の意識が高いことを町としても認識している。今後も事業者・県との協議を踏まえ、検討を継続していくところである。

空き家バンクについては、現在 16 件の登録があるが、さらに登録者と空き家を活用してくれる人を増やしていくための対策を考えていく

町有地の土地利用については、有効活用方策について、関係課とも連携しながら考えていく。

山田委員：ふるさと納税について、個人的に関心があり、いろんな自治体の内容を見ているが、平群町の発信力が弱いと感じている。平群から転出した知人に連絡を取って、平群のふるさと納税も薦めてみたが、設定金額が高いものが多く、買いにくいという意見があった。事業へのチャレンジをアピールするといったことも平群町では欠けている。また、以前平群ブランドのぶどうを買った方から、あまりに不味かったと返品されたといったこともあり、実際に私もチェックしたが、その通りだった。このようなこともあり、品質チェックも重要になることを提案する。

事務局：ご意見について、庁内でも高額商品が多いことや魅力的な返礼品が不足していることを課題だと感じている。

これまで、全ての運営を町内で行っていたが、今年から事業者へ一部委託を行う。事業者の協力を得て、品数、商品開発をしていく。

北川委員：先ほど、町内にゴミが多いという話があったが、ゆめさとこども園に自転車で送迎するお母さん方にとって、歩道の草等をきれいにしていけば走りやすくなる。また、椿井の歩道もアップダウンが多く、走りやすくするための改善が必要である。自転車の転倒事故も増えていると聞いており、細かいことから改善を図ることが大切かと思う。

行財政が厳しいということだが町職員について人員数の変化はないのか。

事務局：一時期、採用を凍結していたが、最近の 2 年間では採用を行っている。全体の人員数はおおむね変わらない。

北川委員：災害時対応など、消防団の高齢化も考慮して心配だと感じる。災害が起こった際に、対応する人員は確保できているのか。

- 事務局： 令和４年は、新規人員は保育士等の専門職を中心に採用している。災害時対応についても町内在勤者や近隣在勤者を中心に対応できるように体制を整えている。
- 長良委員： 第６次総合計画の策定ために検討を進めているが、未来のことを見据えた議論がしたい。例えば、４次、５次計画を進めていく中で空き家が増えてきたが、６次ではこの空き家をどうするのか、具体的に踏み込んで示すべきである。
絵にかいた餅のような計画を作るのではなく、６次で実際に何をやるのか、みんなで議論しながら取り組んでいかなければならない。
- 事務局： これまでの事業で継続・廃止事業もあることを踏まえながら、第６次総合計画の策定を進めていきたい。
- 小坂委員： 従来の計画で足りないと思うのが福祉事業である。例えば、発達障害の子どもが多くなっているが、特別支援学級の教員の不足している現状など、町の支援が弱い。
福祉面において、平群町として具体的に何を実行するか、計画として示してほしい。
- 事務局： 意見を加味しながら担当課とも連携し、内容についてお示しする。
- 山本委員： Ｐ１の「不足していること・弱み」について、自主防災組織について地域で意識の差とあるが、平群町では自主防災組織の結成率は高いことは強みである。結成できないところは理由があり、高齢化等の様々な問題があるが、意識の差を単に弱みとするのではなく、検討していただきたい。
- 事務局： いただいた意見について持ち帰り、所管課と協議を重ねて、次回の委員会で改めて回答する。
- 山本委員： Ｐ５「今後取り組むべき検討内容」で、「学校施設の規模の検討と整備」とあるが、再編成するかもしれないということなのか。
- 事務局： 再編成とは言っていない。この１０年間の取り組みにおいて規模を検証していくということで理解いただきたい。
- 山本委員： Ｐ６「今後取り組むべき検討内容」の障がい福祉の項目について、先日の３月定例議会で「手話・言語条例」が新たに制定されたが、新年度で関連する予算が計上されていないというお叱りを受けた。この条例の件についても盛り込んでいただきたい。
- 事務局： 手話・言語条例の件についても、この１０年間のどのように取り組みを進めていくのか、関係課と協議し、次回の委員会で示す。

山本委員： P2「今後取り組むべき検討内容」の環境保全の項目について「ゼロカーボン等の周知・啓発の推進」では、町民の取り組みを後押しするという話があったが、この取り組みは町民を後押しするのではなく、町が引っ張っていく事業である。言い回しを訂正いただきたい。

事務局： ご指摘のとおり訂正する。

竹内委員： 町内に空き家はどれくらいあるのか。

事務局： 平成 26 年度に実施した調査の結果によると、534 戸となっている。

竹内委員： 自分が住んでいる地域の周辺でも空き家があるが、ぼろぼろで地震が起きると屋根が崩れる恐れがあるような物件もある。このような危険性の高い空き家について把握しているか。

事務局： そのような物件については「特定空き家」として認定し、2～3 件認定済みであると関係課より聞いている。なお、先ほど空き家バンクの登録件数を 16 件と回答したが、トータルとして 24 件の登録があり、8 件が成約済みであることを理解いただきたい。

竹内委員： P7「スマート自治体への転換（AI・RPA）」について、私個人の業務として、現在 RPA による取り組みを進めている。RPA についても様々なものがあるので、今後の検討において参考になる内容もお話できると思う。

事務局： 今後ともご協力をお願いしたい。

中山会長： 本日提示した資料は、第5次計画の課題に沿って、今後の取り組み内容等を示したものであるが、第6次計画の策定にあたり、どのような枠組みで進めるかを検討しつつ、その枠組みにおいて様々な施策を盛り込んでいくため、今後も検討を継続していく。枠組みを第5次と同じとするか、新たな枠組みとするかもこれから検討していくこととなるが、委員各自で関心のあること、関係する分野については、総合計画に入っていない施策では町としても展開できないこともあるので、抜けが無いように今後も議論をお願いしたい。本日の資料についても持ち帰ってチェックいただき、追加の意見があれば次回以降に出していただければと思う。

また、第6次計画で展開していく施策は膨大な数になり、総合計画であるため網羅的に示す必要があるが、この問題を解決しないと平群町10年後が見えてこないといった重点課題も合わせて示すことで、総合計画としてメリハリのあるものになると考える。施策に関する意見を出してもらうと同時に、どの施策が特に重要になるかという点も合わせて示していただければと思う。財政状況も考えるとメリハリのあるものの方がよいと思う。

4. その他

中山会長： 最後に、次第「4 その他」について何かあるか。

事務局： 次回の開催について、しかるべきに時期に行いたい。会長とも日程調整した上で、改めて連絡する。今後も議論をお願いする。

以 上